



市会 関 勝則

議員 せき かつ のり

「地域のチカラ」を、
提案・実践。

◎ 海外視察報告 ◎
<http://関勝則.com>

海外における公民連携事業の推進へ

ベトナム・ダナン市を訪問

11月16日から5日間の日程でベトナム社会主義共和国のハノイ市、ダナン市、ホーチミン市を訪問し、人民委員会や日系企業の方々と意見交換を行ってまいりました。
特にダナン市と横浜市は、2013年に持続可能な都市発展に向けた技術協力に関する覚書を取り交わし、今日まで友好交流を続けています。

日本とベトナムの関係

ベトナムの人口は9340万人で平均年齢は約29歳。昨年の経済成長率が7%弱と、今後の発展が大いに期待される国です。2013年の日越国交樹立40周年を契機に、人材育成や経済・開発協力、安全保障といった幅広い分野で協力関係が進展し、文化交流も盛んに行なわれています。
ベトナムには1500を超える日系企業が進出し、邦人数は13500人。ODA（政府開発援助）では最大の援助国で、貿易の相手国としては輸出入ともに3位に位置し、我が国はベトナムの経済やインフラ開発に大きく貢献しています。



横浜市とダナン市の関係

ダナン市はベトナム中部の中核都市で人口は101万人。インドシナ半島（ベトナム、ラオス、タイ、ミャンマー）を東西に結ぶ陸上交通路の東の玄関口に位置し、製造・物流の拠点として注目を集めています。
横浜市は2013年に交わした覚書を今年4月に更新し、民間投資の推進や環境整備への技術協力などが新たに追加され、一層の都市間連携を進めることで合意しており、これまでにJICA（国際協力機構）とともに「ダナン都市開発フォーラム」を設立して協議を重ね、家庭廃棄物分別促進モデル事業や港湾開発計画、上下水道整備事業について情報収集や事前調査を行うこととなりました。

ダナン市 視察報告

①ハイテクパーク（北部）で、日系企業を訪問
国家プロジェクトとして整備されたベトナム国内で3番目のハイテクパーク。進出を決めた理由として、まず治安が良い、親日である、人件費が安いこと、さらに港に近いことから輸出入に便利な立地にあるからと伺いました。また雇用については人民委員会の支援があり、税制上の優遇措置もあるようです。最近では東京の商工会が視察に訪れていますが、いまだにインフラが十分に整備されておらず進出企業は2社に留まっています。



完成予想図 イラスト:ダナン駐日代表部

②カンソン最終処分場（北西部）で、担当者からごみ処理の現状を聴取
ダナン市ではごみ収集を毎日行い（800トン程度）、分別されていないすべてのごみは最終処分場でそのまま埋め立てられています。現在までに4か所あるうちの2か所がすでにいっぱいとなり、新たな処分場を計画中とのことで、収集や最終処分の方法、環境保全などに課題があります。
意見交換の場では、分別収集の導入と徹底、ごみ焼却炉の設置（できればベトナム初）などを提案し、今後横浜が公民連携で取り組む事業について理解と協力を求めました。



カンソン最終処分場